

人脈 追跡

3%成長、陰の指南役たち

日本経済は成長力を高められるか。景気は回復軌道に乗り始めたとはいえ、力強い成長への糸口をつかめない日本。「実質3%成長」を目指す日本経済の陰の指南役が米国にいる。

「こんな低成長では国民の所得が倍になるのに五十年かかる」。四月下旬、ニューヨークでのセミナーである日本人エコノミストが日本経済の成長力加

得分配が難しく、誰かが必ず取り残される社会になる。少なくとも3%成長を実現する経済政策が必要だ」と力説した。

この人物は調査会社I.T.エコノミー・アドバイザーズ代表取締役の熊坂信三(58)。東京工

高成長派 3-4%
中川 秀直 (現・自民党幹事長)
竹中 平蔵 (現・慶大教授)
大田 弘子 (現・経済財政担当相)
安倍 晋三 (現・首相)

低成長派 1-2%
与謝野 馨 (当時、経済財政担当相)
谷垣 禎一 (当時、財務相)

日本経済の潜在成長率論争 05-06年 VS



ペンシルベニア大の「英知」結集

ルベニア大で博士号を取得。国連経済社会局やニッセイ基礎研究所を経て二〇〇〇年、恩師の同大名誉教授ロレンス・クライン(86)らとニューヨークに独立シンクタンクを創設した。

「民間に知恵があるはず」。熊坂はクライン教授の超短期経済モデル(QM)を使い日々の指標から短期経済予測を出す独特の分析でウォール街で知られた存在。ペンシルベニア大の音頭で発足した計量経済の国際会議プロジェクト・リンクで人脈を広げタイ、フィリピンの政策にも一役買っている。

熊坂の名が日本に広がったのは自民党幹事長の中川秀直(63)が二〇〇六年ぶち上げた「日本版上げ潮戦略」に関与したのがきっかけ。二人を結んだのは現慶大教授の竹中平蔵(56)だ。

上げ潮戦略の後ろ盾になった。具体策を欠けば、絵に描いたモチになる。安倍政権発足後の十一月、来日したクラインは熊坂とともに中川と会談。「生産性向上にはITの効果を生業別に分析し、ミクロ面からの構造改革を立案する必要がある」と指摘した。だが、次の一步の動きは鈍い。クラインらの助言は日本経団連の21世紀政策研究所が引き継ぎ、夏から研究に着手することになったが、構造改革の揺り戻しで政府・与野はやや距離を置いた感がある。